

一般人を含め、約200人で、楽しい合宿の5回目です。

2011/8/23 版

第32回生命情報科学シンポジウム <http://wwwsoc.nii.ac.jp/islis/sjis/islis.htm>

2011年8月25-28日(木-日) 合宿討論 V 不思議現象を説明出来る新しい世界像を求めて

ミニシンポ、近未来医療など

於 富士 Calm(カーム) <http://fujicalm.jp> =人材開発センター富士研修所(元経団連研修所)

電話 TEL:0555-22-5156 山梨県富士吉田市新屋1400 富士浅間神社 徒歩5分

参加募集中

形式: 発表、講演、体験報告、実演、実技指導、セミナー、ワークショップ、など

内容: スピリチュアル、ヒーリング、自然治癒力、代替・統合医療、美容、健康増進、
潜在能力、能力開発、自己啓発、超常現象、など



建物



合宿所の前面庭



裏庭



富士浅間神社



26金 本会議の夜
日本三奇祭 「吉田の火祭り」
富士浅間神社が見られる
絶好のチャンス!

今後の詳細: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/islis/sjis/islis.htm>

参加会費 下記は、標準室料金(定員、相部屋)です。

追加料金:1人部屋 1泊 +1万5千円、2人部屋 1泊1名につき+5千円

オプションセミナー 3万円(25日1泊3食)、本会議 4万円(26日2泊6食)

毎日懇親会・会議費含む。割引: 両方参加割引 パスポート 6.5万円(5千円引き後)

ISLIS会員、**IRI**会員、**NS**(正・準)会員 早期割引は終了致しました。

お振込先: みずほ銀行(0001) 稲毛支店(336) 普通 **4093143**

上記はシンポ(合宿)参加費専用口座。ISLIS年会費他は、上記に振込まないで下さい。

名義 国際生命情報科学会 電話 043-255-5481 fax 043-255-5482

主催 国際生命情報科学会(**ISLIS**:イスリス)

共催: 国際総合研究機構(**IRI**:アイリ)、超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会(**NS**)

大会長 山本 幹男 **ISLIS**理事長・編集委員長(国際総合研究機構(**IRI**)理事長)

nspoiri@gmail.com 090-9232-9542 Fax 043-255-9143

発表・参加申し込み先: islis@a-iri.org Fax 043-255-5482

ご質問:ISLIS本部 古谷祐子 早朝 043-255-5481 複雑な事 上記 大会長 山本幹男 へ



山本幹男



坂本政道



神沢瑞至



宮崎なぎさ



古川彰久



王一帆



よしだひろこ



斉藤大法

25木 午後 ~ 26金 午前 オプション・セミナー

以下の中から申込時に1つ選択

斉藤 大法 (NPO心のケア 大樹の会 代表、四方僧伽メンバー、僧侶(日蓮宗)、医師)

成長神話からのパラダイム・シフト ~より深い幸せ社会へ~

産業革命によって人類が獲得した経済成長神話は、今や南北格差、資源争奪戦、地球規模の気候変動等様々な深刻極まりない問題を生み出すに至っております。地球資源や環境容量の有限性という点からしても『持続可能な幸せ感のある社会を構築するためのパラダイム・シフト』が強く求められるところです。

私は、この新たなるシフトをもたらす根源的創造力は、古代よりの人類普遍的叡智さらにはそれを叡智たらしめている、宇宙を貫くDharmaにある、と考えます。この度、このDharmaにアクセス(合一)することにより、①精神の深い充足とそこから派生する②物質的豊富さへの執着からの解放、③脱成長神話社会の創造への流れを考察しつつ実践的に提示されることを共に試みたく存じます。

坂本 政道 (モンロー研究所 レジデンシャル・ファシリテーター、
アクアヴィジョン・アカデミー 代表取締役、国際生命情報科学会(ISLIS) 理事)

ヘミシンクを体験してみよう 高次元への道への誘導

ヘミシンクは聴く人を知覚・意識の拡大した状態へ導くことで、体外離脱に代表されるさまざまな不思議体験を可能とします。たとえば、遠くの様子がわかったり、知人が何をしているか把握できたり、人の思いが伝わってきたりということが起こります。あるいは、さらにガイドと呼ばれる存在との交信や、過去世体験、死後世界の探索、宇宙探訪といったことが可能となります。心の中に隠された過去に起因する種々の傷やトラウマを解消することも可能となります。今回のセミナーはその基礎となるものです。ここでは、ヘミシンクを聴く際に重要となるメンタルツールと呼ばれるものとフォーカス10、12という意識状態を学びます。

◎参加者は以下を持参：・ヘッドフォン(長時間聴きますので、大き目の耳がいたくならないもの)ヘッドフォン・ジャック仕様：3.5mmステレオミニジャック・アイマスクまたは目を覆う黒っぽいタオル・筆記用具・飲み水

神沢 瑞至 (気療塾学院 学院長) 気療で健康増進 - 気療実施指導

私たち人間は、他の動物と同様に身体から「生命エネルギー」を発散しながら生きています。両手の五本の指からも当然、生命エネルギーが発散されています。私たちは、大脳が主体の「運動機能」により、両手の五本の指を自由自在に動かすことができます。しかし、私たちの両手の五本の指には、もう一つの機能があります。それは脳幹が主体の「癒しの感覚機能」です。癒しの感覚機能としての、両手の五本の指には、生命エネルギーを発散する機能と、人間や動物が発散する目には見えない生命エネルギーを感じる機能の二つの機能が秘められています。この癒しの感覚機能の存在を知る人は、少ないと思います。両手の五本の指は、「気療理論」と「気療実践」の「要」です。癒しの感覚機能には、「自己治癒力」と「他者治癒力」の二つの治癒力があります。これを『自他治癒力』といいます。自他治癒力は、病気やケガの癒しの効果と病気の予防効果があります。今回は、両手の五本の指と自他治癒力との関係を詳しく説明しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

古川 彰久 (生命力活性研究会 会長) "いのち"を活性化しよう

いのちを観察していくと、いのちを具現化している肉体の背後に目には見えないが生命力ともいえる膨大な微弱エネルギーが存在している。これらのエネルギーは、現在の物質の科学では解明できず、量子論における2元性の1つである波動性の観点から説明される。

私たち生命体は、意識するかどうかに関わらず、この生命エネルギーに支えられている。また、移り行く環境の中で生命活動を継続していくために、無意識下で環境から与えられるいろいろなエネルギーを受け止め、自らの生命エネルギーを働かせている。私達の「いのち」に備わっている感受性や自然治癒力がその表れでもあります。このような生命エネルギーを観測したり、活性化するのに波動機器が活用されている。

当セミナーでは、現実の生活の中で、このような生命エネルギーをどのように受け止め、どのように活用し、人々の生活に役立っているのか、実践指導者の方々からの報告と討議を通じ、お互いに理解を深めて参ります。

宮崎 なぎさ (国際TAW協会 会長 株式会社アクエリアス・ナビ 代表、TAW理論創始者)

アカシックレコードを読み取る技術 - 思考から現象へのプロセスの理論：TAW -

宮崎なぎさは1997年、歴史を研究中、20世紀と12世紀の歴史上のフラクタル構造を発見しました。そして、歴史がフラクタルになっている国は地形もフラクタルになっていることに気づきました。このことから宮崎なぎさは、地形は実在ではなく、脳の中でフラクタルに生じる錯覚であることに気づきました。そこで、錯覚を避けるために現実を五感で分類して並べ替えた結果、現実の中に規則的な構造を見いだしたのです。それは時間と空間の謎を解きました。この理論を宮崎はTAW(タウ)と名付けました。これによって、いままで不思議とされていた前世、生まれ変わり、憑依などの現象を解明できます。また、世界は自分の思考が生み出したもので、それがフラクタル構造になっているということは、世界を見ると自分の潜在意識が読み取れるということになり、未来と過去を見抜くアカシックレコードの読み取りが可能になります。

山本 幹男 (大会長、ISLIS理事長・編集委員長、国際総合研究機構 (IRI) 理事長)

第32回生命情報科学シンポジウム

不思議現象を説明できる「新しい世界像を求めて」V 開催趣旨、外来者紹介

国際生命情報科学会 (ISLIS) は、1995年の創設以来、こころや精神を含んだ不思議現象の存在の科学的実証とその原理の解明を主目的として来た。16年間に生命情報科学シンポジウムを32回主催し、国際学会誌 Journal of International Society of Life Information Science (*Journal of ISLIS*) を年2号定期発行し、総計5,000頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた。この間不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし、その原理の解明はほとんど進んでいない。そこで、第5回目の標記の合宿に富士に集い、下記を実施する。スピリチュアル・ヒーリング、気功、潜在能力、超常現象、超心理現象など、現代科学で説明が出来そうも無い不思議現象が多種存在している。各界の世界像を知り、不思議現象を説明可能な世界像を合宿討論で追求する。また、統合医療・代替医療の実践体験の交流を行う。また、参加者による気功・セラピーなど各種健康増進、自然治癒力、能力開発、自己啓発などの講演・実演・実技指導等で各界の交流を図る。オプションでは各講師の分野について理解を深める。前回の3月の第31回シンポジウムは2011年3月11日の東日本大震災・原発事故の直後で誌上発表のみとなった。今回の特徴は、大災害やその後の情勢やボランティア経験に関するものが多い事である。

下村 博文 (自由民主党シャドウキャビネット 文部科学大臣 兼 科学技術担当大臣、超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会 (NS) 幹事長、国際生命情報科学会 (ISLIS) 特別顧問、元 内閣官房副長官、文部科学大臣政務官、法務大臣政務官、元 衆議院法務委員長)

3・11以降の人間学

3・11以降、これまでの日本のあり方では通用しない、新たな意識変革が必要だと多くの人が感じたのではなかろうか。教育もこれまでの頭を鍛えるだけの教育から、心・魂を開発する教育へと進化が求められる。人の幸せは頭を鍛えるだけでは得られない。もっと根源的なこれまで各宗教が探求していた悟りの境地、あるいは魂の開発をすることが、教育においても求められるのではないか？それを普遍的に追求する方法は何か考えてみたい。

佐藤 康行 (こころの学校創始者) 宇宙意識と人間の無限能力

今、人類に様々なことが起きています。天変地変、戦争、つい最近の東北大震災では、我々人間の無力さを思い知らされました。しかし、私たちの意識の中には、宇宙意識という壮大なる無限の力が眠っています。それを私は「真我」と言っています。宇宙、地球に起きるすべての出来事を根本から解決するには、真我に目覚め、神に近づく道を歩いていくことしかありません。今、日本を中心として、世界が一挙にアセンションします。今、この場で神の世界に飛び - 飛神

宮崎 なぎさ (国際TAW協会 会長 株式会社アクエリアス・ナビ 代表、TAW理論創始者)

潜在意識読み取り法…LDP (LDPとは「人生の暗号を解読する手法」の略です)

もう占いやらず！ 自分の潜在意識からのメッセージがこんなに簡単にわかる！

世界のフラクタル構造を利用した、潜在意識読み取り法、LDP。身の回りの出来事やテレビのニュースから、自分の潜在意識からのメッセージを受け取りましょう。

講演

高木 治 (国際総合研究機構 生体計測研究所) 人間の自由意思と素粒子の自由意思について

量子力学の世界観においては、それまで物理学の基本的な前提と考えられてきた、実在性・局所性・因果性という概念が破綻してしまう可能性がJ.S.ベルによって指摘された。この中で、実在性とは客観的なものであり、量子論的物体(素粒子)の実在に関しては、観測者(人間)の自由な意志による主観的な選択の余地はないはずである。ところが、量子論的物体が実在するかどうかを確認するには、何らかの方法で観測者が測定をすることが必要となるが、もし観測者に測定方法の選択に自由意志が存在するならば、量子論的物体にも観測結果を左右する自由意志が存在するという驚くべき結論が、コンウェイとコッヘンによって2006年に示された。これは、「自由意志定理」と呼ばれているが、その中では自由意志の存在が人間というマクロな生物から、非生物であるミクロな素粒子にまで拡張されることを示している。ここでは自由意志定理の意味と、そもそも自由意志とは何かについて考察をする予定である

26日夜から 日本三奇祭 「吉田の火祭り」富士浅間神社が見られる 絶好のチャンスです！

講演・実技指導

神沢瑞至 (気療塾学院) 気療で健康増進 - 気療実施指導

宮崎 なぎさ (国際TAW協会 会長 株式会社アクエリアス・ナビ 代表、TAW理論創始者)

この地震はなぜ起きた？

3時間セミナー

TAWは「思考が現実化する」という仕組みを解いた理論です。今回、地震という現象についてその原因を探ります。思考が現実化するとしたら、いったいどんな思考が現実化したのでしょうか。偶然はどこにもありません。被害者意識を取り除いてはじめて見える世界があります。また、二度と地震に遭わないような思考にするための脳の修正法も学びます。TAWを極めると、この世は完全に安全だとわかります。ぜひ、学びにきてください。

講演

河野 貴美子 (国際総合研究機構 生体計測研究所) **脳の科学から考える催眠**

催眠とは脳のどのような状態なのか、問い続けていまだ明確な答が得られたとは言いがたい。催眠のような現象は動物実験は難しく、ヒトでもfMRIやPETのような大掛かりな装置での計測には不向きである。筆者はもっぱら、脳波でどこまで解明できるか、様々な状況下での測定を試みてきた。そのような中から、催眠といわれる状態を引き起こす要因や脳の情報処理過程について考えてみたい。

研究発表

小山 悟史¹、小久保 秀之^{1,2} (1 国際総合研究機構、2 明治大学 意識情報学研究所)

白いぼキュウリ濾液の極微弱生物光のスペクトル (仮題)

白いぼキュウリの濾液を空気にさらすと、極微弱生物光が観測される。この発光スペクトル分布を、ローパスフィルタ(ガラスフィルタ)を使って調べた。測定は1時間ごとに連続18時間実施した。結果、520~540nmの帯域の発光強度が最も強いこと、370~440nmまでの帯域はほとんど発光が見られないことなどがわかった。

研究発表

根本 泰行 (国際総合研究機構)

物理的乱数発生器を用いた「場」の測定システムを目指して

個人の念力や人類全体の感情・意識の変動によって、放射性同位元素の崩壊や熱雑音などの物理的過程を利用した乱数発生器(RNG)が発生する乱数の出力に偏りが生じることが報告されている。たとえばプリンストン大学の「地球意識計画」では、世界数十カ所に配置されたRNGの出力を継続的にモニターして、世界的な出来事との関連性を調べてきており、2001年9月11日の同時多発テロなどにおいて乱数の分布に著しい変化が生じたことが報告されている。しかしながら世界的な出来事がもたらす影響については再現不可能なために、因果関係を確実に解明していくことは容易ではない。人間の念力の効果についても、定量的に同じ条件で再現することは難しく、事例を積み重ねて統計的に推論するしかない。

著者らは、RNGが生成する乱数に対して、影響を与え得るさまざまな要因との間の因果関係を解明することを目的として、新規測定システムの開発を進めている。具体的には、6台のRNGをパソコンに繋ぎ、そのうち3台を対照となる環境に設置し、残りの3台を測定したい「場」に設置する。独自のソフトウェアを用いてこれら6台の乱数出力(1台当たり毎秒7,680ビット、台数はさらに増やすことが可能)を同時に取り込み、リアルタイムで各種統計量を計算し、両グループの間での乱数の分布の違いを記録・表示する。この手法によって、特定の「場」の状態を再現性良くかつ定量的に測定できるのではないかと期待している。センサーとしての応用可能性を探るために、複数のRNGを用いた時の互いの空間配置の効果についても現在、検討中である。

一般発表

申田 剛 (ばんどウクリニック 脳神経外科)

予防医学におけるヒーリングの役割と精度

病気と障害に対するシータヒーリング®の経験から

今日、日本においては癌の発生率も上がり、国土が目に見えない放射線の脅威にさらされており、予防医学、未病対策に重点が置かれる時代がきます。パーソナルゲノム検査で病気の発生リスクを算定しても発症をおさえるのは西洋医学だけでは不可能で代替医療が必要になります。その点で潜在意識の思考習慣や人のもつエネルギーの状態を変えうるシータヒーリングなどの医療へ導入の可能性について発表します。

ワークショップ

よしだひろこ (HPS カウンセリングアカデミー代表、国際総合研究機構 (IRI) 協賛：日本催眠療法協会理事長 国際生命情報科学会 (ISLIS) 評議員、人間サイエンスの会、日本催眠学会会員)

3.11 大震災と原発事故そして日本の未来は ~誘導瞑想による未来予想図~

潜在意識からの情報を受け取る五感・予知能力は、どこまで意識を超えることができるのか。2011年東北地方の大震災と原発事故は10年前から多くの人に催眠療法のなかでハイヤーセルフからの警告として予告されていました。災害が現実となった現在、封印されていた負のエネルギーを解放し、いまいちど超心理学による、よしだひろこの誘導瞑想のもと、セミナー参加者全員が高次元の意識による未来予告ビジョンを体験することが可能になります。これからの日本のため、世界のためにISLIS会員によるエドガー・ケーシープロジェクトを立ち上げようではありませんか。

・各自の体験談や討論のあと10年前のテープによるハイヤーセルフの証言、不思議エネルギーの数々を解明してゆきたいと思えます。

体験ワークショップ **~アントン・メスメルリラクゼーション&オーラヒーリング~**
宇宙エネルギーの活用法

◎施術： 棚谷敬太・相川美奈子・吉村典子・會澤清子・菊池健吾・出田勉・鈴木珠巴

(HPSカウンセリングアカデミー 研究生)

近代催眠術の祖と言われている、ドイツ医師フランツ・アントン・メスメルの「メスメリズム(動物磁気説)」。宇宙には目に見えないエネルギーが浸透しており、このエネルギーを取り入れる事によってオーラを浄化し肉体と精神のバランスを整える方法をご指導致します。

座長・討論者 **小久保 秀之**（国際総合研究機構 生体計測研究所、明治大学 意識情報学研究所）

討論者 **蛭川 立**（明治大学 情報コミュニケーション学部、明治大学 意識情報学研究所）

清水 武（明治大学 科学コミュニケーション研究所、明治大学 意識情報学研究所）

根本 泰行（国際総合研究機構 生体計測研究所）

概要：意識が微小スケールの確率現象に特異な影響を与えるといわれており、その作用を研究する装置として乱数発生器（RNG）がよく使われている。しかし、乱数発生器がどのようにして特異な作用を検出しているのか、どのように実験すれば効率的なのかなど、不明な点も多い。このワークショップでは、次の3点を中心に、乱数発生器を用いた測定系の問題を討論する。1) 波動関数の直接測定が可能であることと意識現象との関係、2) 乱数処理過程におけるXORの意味、3) 測定における距離と方向の問題。（詳細は学会HP参照）

小山清二（仙経頭聖）（経済産業技官） 心の健康(地球の健康)

健康を害する要因は殆ど心に関係するが、特に霊的な因果関係が過半を占めている。そこで、人間は精神（肉体）、心、魂から成り立つことを前提に、これらの明確な概念の相違や相互の働きを考察する。

これらの概念は現代医学の臓器移植、安楽死、脳死、墮胎などのみならず、また人間の死とは何か、生きる真の目的や意義にも関係する。最後に正しい信仰観を初め、解脱、悟覚に関しても言及し、邪悪な想念を一掃して、人類の正しい想念波動の変革こそが、地球の浄化・刷新から、差し迫った地球の破局への回避にも繋がっていくことを指摘する。

古川彰久（(有)イキイキライフ代表取締役、*ISLIS* 幹事）生命力活性研究会の発足と波動性について

本研究会は、現在の科学では未解明な意識、場のエネルギーや情報機能等の存在を認識し、これらのエネルギーや情報機能等を活用することにより自らの自然治癒力を増進し、健全なる心身の実現と生命力を活性化させる意識の育成を図るべく、研究および普及活動を推進する。

私たちの“いのち”について、今の科学はどこまで解明できているのでしょうか。科学が私たちの生活を向上させるためのものならば、これからの科学は、“いのち”の働きの活性化が、一つの重要なテーマになると考えます。

高橋武生（素粒子エネルギー療法研究所所長） 脳と潜在意識（波動測定のデモンストレーション）

脳は五感を通じて環境から膨大な情報を受け取っている。ハイデルベルク大学生理学研究所のマンフレート・ツイメルマン教授の研究によれば、人間の脳は毎秒1100万ビットもの情報を無意識に受け取っています。私たちが見ている視覚・聞いている聴覚など、意識している情報量は五感すべてをあわせても、77ビットしかありません。この科学的研究結果は、なにを意味しているのでしょうか。人間の脳は、環境が発している情報エネルギーを、五感を通じて無意識に受け取り潜在意識に落とし込み、やがて思考、行動、健康そして人間関係に影響を与え、更には、生命治癒力(自然治癒力)に大きな影響を生み出します。

鹿子正己（氣功師：30年の気功歴一筋の中で、「氣」という道具（Tool）を使って、主にがん・難病・原因不明の病気などを対象に生命体エネルギーの活性及び正常化に向けた取り組みをしています。）

生体エネルギーを活用して瞬間筋力アップ（誰でも楽しくできる実践参加型セミナーです）

体には肉体を維持する生命体エネルギーが働き、身体、心、人格など様々な分野に作用していることが考えられます。そのエネルギー体に意識を伝導（波動）させることによって「生体エネルギーの方向・質・量」に働きかけることができます。この方法により骨格筋のみならず内臓筋への働きかけ、薬が使用できない症状、原因不明の症状、その他健康分野以外でも美容・趣味・スポーツ・仕事などに役立つ活用方法があります。

ヒロ澁谷（(有)実験工房 代表取締役、ヒロ澁谷 LLF(生命生活情報)主宰、宇宙エネルギー健康会主宰）

宇宙エネルギー・コントロール・センターのワークショップ構想

私は波動測定器（Active Life Tester）使用10年の体験から、21世紀型の健康と幸福生活の1つの提案をします。20世紀から21世紀への大きな変動は産業革命以後の資本主義社会の崩壊です。ということは3次元世界での健康・幸福追求から21世紀が波動の時代と称されるように4次元世界への介入です。波動測定器と波動測定はこの両世紀の橋渡しの機能を提案してくれました。この10年を通しての発見は以下の通りです。

- 1.遠隔測定・施療の可能性
- 2.宇宙エネルギーの環境のなかでの、「+」「-」の判断
- 3.人間細胞の健康施療への宇宙エネルギー効果
- 4.宇宙エネルギーが健康にとどまらず生活環境への影響

以上のことより、宇宙エネルギーのコントロールセンターの存在を意識、そこで仕事をするメンバーの構成と仕事内容を提案し、21世紀の新しい生き方の1つのパターンのプレゼンテーションを行います。

ミニ・シンポジウム

王 一帆 (回春功 上級師範) 近未来医療

王の考える近未来医療は西洋医学と東洋医学の得意分野の協調にあります。西洋医学は部分治療が得意分野であり、悪い部分を治療することによって治療を目指しますが、人の体は相互関連しているため悪い部分があると他の部分も痛んでいます。体力がある場合にはこの痛みは回復しますが、高齢や病気などで体力が弱っている場合には部分的な治療では正常な体に戻れず、再発や他部分への問題が生じる原因となります。一方、東洋医学は体全体への影響コントロール及びバランス維持が得意分野ですが、症状が体の回復力を超えてしまっている場合には、外科的な部分治療が不可欠です。したがって人体への医療時期をいくつかの段階に分けて、その時期に応じた段階分担医療が私の目指す近未来医療です。

[1] 予防 (体調・体力のバランス維持時期)

[2] 体力重点時期 (要自己治癒活性化時期)

[3] 治療重点時期 (要外部治療時期)

[4] 体力回復時期 (要バランス回復時期)

セミナー

古江 嘉明 (古江クリニック 名誉院長) 21世紀の対『ガン』戦略『ガン』診療最前線

大村恵昭博士のBi-Digital Oring Testは『気』とのかかわりがあり被検者と術者との間にも見えない『気』の繋がりが有る。被検者の代りに術者自身が、BI-Digital OringTestに相当する『気』の現象を気診診断(『気』を診ることを『気診』と呼ぶ。『気診』=統合医療=ホリスティック医学)するという方法で『ガン』の診断治療を行った。『ガン』の診断は、末原博士の音素診断学・音素=(ことだま)による『ガン』診断法を利用した。その方法は『ガン』の音素を患者にむかって無声で声をかけると術者はその『気』の共鳴で『ガンの気』を感じて患者の『ガン』診断が出来るというものである。次に『気』の流れを応用して作られた井上式計測表を用いて、使用する薬剤が患者に適応しているかどうかの判断を行った。また薬方計測表を用いて患者の『陰陽の気』のバランスの診断を行った。この手法は大鹿村分杭峠のゼロ磁場の事例と同じであり、『ガン』の治療に貢献すると考える。50歳の男性肺癌で脳転移の患者に井上式計測表・薬方計測表を用いて漢方薬を選択投与したところ、3ヶ月で脳転移が消失した。古来よりあらゆる物に『気』有りといわれており、漢方医学最古の古典『素門』に、病は『気』に生ずこの『気』には『陰の気』と『陽の気』があり、『陰陽の気』の不調和が『病気』であり不調和がどのような状態になっているかを診るのが診断である。この不調和を調和させるのが治療であると記載されている。先の症例はこれを実証するものである。『気診』の技術を会得すればこの例のみならず、他の医療のすべて、また昔からのいろいろな言い伝えに対しても説明を進めることができると考える。

ポスター発表

清水 武・石川 幹人 (明治大学 科学コミュニケーション研究所)

事前記録ファイルを使用したフィールドRNGにおける過去遡及的効果の検討

本研究では、乱数生成器 (RNG) によるフィールドRNG実験により、フィールド意識における意図せざるPKが、事前に記録された物理乱数に対して、過去遡及的に働き、偏りを与える可能性を検討した。実験者は、日本のプロ野球の試合をフィールドとして、合計8試合にエントリーした。事前記録された複数の乱数ターゲットが提示され、同様に物理乱数も生成された。実験の結果からは残念ながら、事前記録のターゲットに対して、過去遡及的な効果はみられなかった。加えて、実際に生成した物理乱数においても偏りは見られなかった。